

雇用改善、労災防止を

県建協・建災防県支部・県建産連 推進大会

県建設業協会、建設業労働災害防止協会県支部、県建設業団体連合会は、山梨労働局や県と共に2016年度の「建設雇用改善推進の集い」「建設業労働災害防止大会」を25日に昭和町のアビオ甲府で開催した。雇用改善優良事業所や「私たちの主張」入選者の表彰、「安全の誓い」発表などを行い、さらなる雇用改善と年末年始の無事故・無災害を誓い合った。



大会では表彰や講演などを行い、雇用改善や無災害を確認した



「安全の誓い」を確認し、無事故無災害を誓い合った



井上支部長 浅野会長

あいさつで県建設業協会と県建産連の浅野正一

会長は、雇用改善に尽力している関係者に感謝を

表し、「県内の建設産業は、技術と技能に優れた人材が生産を託せる産業として働く場を提供している。建設業は県の基幹産業として、地域経済の活性化に寄与し、社会資本整備、災害に強い県土づくりという社会的責任を果たすために努力している」と、地域建設産業の意義を強調。

さらに「担い手3法が運用され、先が見える安定した経営を確保し、労働条件の改善や人材育成に取り組み、夢のある産業として担い手を積極的に確保できるよう対応していくことが重要」と参加者に理解と協力を求

めた。建設防の井上和夫支部長は、県内の建設業の労働災害は長期的には減少しているが、ここ数年は増加傾向で、本年は「建設業ゼロ災害宣言運動」を展開していることを紹介。

「労働災害防止大会は、会員が一堂に会し、安全について共に考え学ぶ貴重な機会である。有意義な研修としていただきたい」と望んだ。また、年末年始の労働災害防止強化表彰に輝いた中込恭平さん(丹澤建設工業)を表彰し、同省佳作と山梨労働局長表彰を受賞した岡真弓さん(早野組)、高校生作文コンクールで土地・建設産業局長表彰を受賞した佐野郁馬さん(甲府工業高校3年)が作品を発表した。

その後、表彰が行われ、雇用改善優良事業所などや「私たちの主張」「高校生作文コンクール」の入選者を称えた。さらに、続いて、「安全の誓い」が発表された。

現場代理人研修では、山梨労働局長の星野護健康安全課長が「建設災害の現状とゼロ災害への取り組み」について解説。さらに、現場の安全への取り組みを管吹分會、オレンジ隊、ブルーキャップス

を参加者全員で確認し、絶対無事故を誓い合った。第2部として行われた

「私たちの主張」で国土交通省土地・建設産業局長表彰の中込恭平さん(長田組土木)が作品を発表した。

「私たちの主張」表彰
◆国土交通省土地・建設産業局長表彰中込恭平(長田組土木)

安全の誓い

私たちは、人命尊重の基本理念の下、日々の安全確保を第一に不断の努力を続け、建設業の労働災害は長期にわたり減少してきました。しかしながら、建設業の重篤な災害は、全産業の中でも最も多く、目標として掲げた「第7次建設業労働災害防止5カ年計画」の達成には、さらなる安全衛生管理活動等の充実を図る必要があります。

また、今後、建設投資が回復基調で推移することが見込まれる一方、技能労働者の不足や高齢化、将来の担い手の育成・確保など、喫緊に解決しなければならない課題もあります。工事量の増加とともに労働災害が増加することのないよう、安全衛生教育の充実や企業の安全衛生管理能力の一層の向上を図る必要があります。

このため、組織トップのリーダーシップの下、リスクアセスメントをはじめとする効果的な労働災害防止対策を計画的かつ継続的に進め、現場で働く一人ひとりまで、安全を最優先する「安全文化」を定着させることが重要となります。

私たちは、本日の大会を契機として、さらなる安全意識の高揚および各社で培われた安全衛生管理のノウハウを共有化して、建設業の労働災害を根絶するため、

- 一、山梨県建設業ゼロ災害宣言運動の確実な実施およびメンタルヘルス対策の推進
 - 一、墜落・転落、建設機械・クレーン等、倒壊・崩壊の三大災害防止対策の徹底
 - 一、リスクアセスメントを核とするコスモスの導入および計画的な安全衛生計画の推進
- を重点として、労働災害防止活動および健康の保持増進ならびに快適職場環境の形成に組織的に取り組み、だれもが安全で健康に働くことができる職場を実現することを誓います。

山梨県建設業労働災害防止大会

雇用推進、安全活動に尽力

◆県建設業協会会長表彰
平(丹澤建設工業)
◆国土交通省佳作
岡真弓(早野組)
◆県知事表彰
馬(県立甲府工業高校建築科3年)

◆建設業労働災害防止協会
功労賞
三森一(甲)

◆建設業労働災害防止協会(支部)
功労賞
早野正泰(早野組)、野澤孝之(野澤工業)、飯塚潤(飯塚工業)、望月浩(川口建設)

◆感謝状
清水かわり(龍美建設)

◆県建設業団体連合会会長表彰
田鉄工
◆高校生作文コンクール表彰
岡真弓(早野組)、望月陽太(飯田鉄工)

◆功績賞
千野浩也(千野瓦工業)
優良賞
矢崎勝教(矢崎興業)、小澤浩人(中田工業)、渡辺由美子(渡建工業)

◆功績賞
天野朝馨(長田組土木)、深沢清幸(深沢組)、広瀬正記(広田工業)、中川久(友愛工業)、岸本克彦(岸本興業)、遠藤和宏(藤和建設)、松永正賢(松永建設)、小泉充(峽北工業)、仲山幸寿(仲山建設)、小林大希(丸大産業)

*** フラッシュ・ニュース ***

鉄筋工(土木)不足大きく

国土交通省が10月に実施した建設労働需給調査の結果、過不足率は全国の8職種全体で1.3%の不足となり、前月から不足幅が0.4ポイント拡大した。台風被害に伴う災害復旧工事の影響で北海道地域の不足率が大きく上昇したことが主な要因。

8職種中、鉄筋工(土木)の不足率が最も大きく5.2%で、対前年比の過不足率でも不足率が大幅に増えた。

職種別では型わく工(土木・建築)、左官、土工、鉄筋工(土木)、電工、配管工で不足傾向、鉄筋工(建築)では過剰傾向になった。地域別では関東が過剰で、それ以外の地域では技能労働者が不足傾向。今後の労働者確保の見通しは全国・東北地域ともに「普通」。残業・休日作業を実施している現場数は8職種で手持現場数の5.3%となり、前月比で増加した。主な理由では「前工程の工事遅延」・「昼間時間帯の制約」・「天候不順」の順が多かった。

石油の価格「やや上昇」

国土交通省が生コン、鋼材、木材など7資材13品目を対象として11月上旬に実施した主要建設資材の需給・価格動向調査の結果、価格動向は石油が「やや上昇」したものの、その他の資材は「横ばい」となっている。需給動向は全ての資材が「均衡」に見られた。

資材が「均衡」で、在庫状況は全ての資材が「普通」。

東日本大震災の被災3県では、価格動向は石油が「やや上昇」し、その他の資材が「横ばい」に。需給動向は全ての資材が「均衡」になった。在庫状況は、骨材(再生砕石)で「やや品不足」の傾向が見られた。

10月生コン出荷ふるわず

全国生コンクリート工業組合連合会は、2016年10月度の生コン出荷実績が2016年度の需要見通しなどを明らかにした。

10月度の総出荷量は761万5000㎥で、前年同月比で8.5%減少した。需要別の内訳をみると、官公需は前年同月比10.4%減の317万7000㎥、民間需は同7.1%減の443万8000㎥だった。

官公需は依然低迷が続き、これで25カ月連続で前年割れとなり、民間も3カ月ぶりにマイナスに転じた。

同連合会では上期の実績を踏まえ本年度の需要見通しを再想定し、15年度末に想定した8249万1000㎥から8168万9900㎥に下方修正した。

生産性向上へ会議会員公募

国土交通省は建設現場の生産性向上を図る「Construction」を推進するため、産学官連携による推進コンソーシアムを来年1月に設立する。会員は建設分野の業界団体・企業やAI(人工知能)・ビッグデータなどのIoT関連、ロボット、金融、情報通信などの分野やベンチャー、地方自治体を含めて幅広く産学官から募り、連携を図る見通しで、このほど会員公募が始まった。

コンソーシアムでは、最新技術の現場導入のための新技術発掘、企業間連携の促進、3次元データ活用促進に向けたデータ標準やオープンデータ化、AI・コンストラクションの海外展開などの事業を進めていく。

会員希望者は専用アドレス(http://www.mlit.go.jp/tech/tec_00000808.html)から登録できる。